

C1

實  
驗  
日  
本  
修  
身  
書  
卷  
二  
尋  
常  
小  
學  
生  
徒  
用

C1

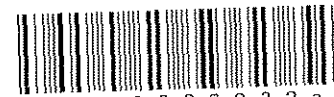
T1A3  
22  
W46j

明治廿六年九月十八日  
文部省檢定

三宅米吉校閱  
中根淑  
渡邊政吉編纂  
實驗  
日本修身書卷一  
尋常小學  
生徒用

東京  
金港堂書籍會社

圖書 和圖書 遡



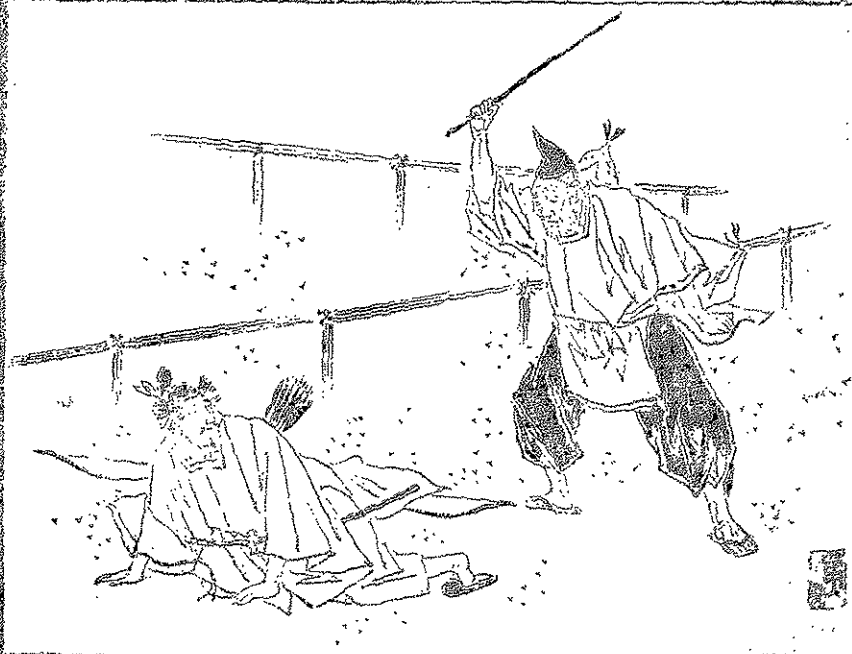
a 1 3 8 0 3 2 9 2 3 2 a

福岡教育大學藏書

第一課 孝行

父母のきへ  
あらばつらん  
できくべし。

シモツケノキシスゲ  
下毛野公助は、ゆみいる



ことをよへせし人なりしがはれ  
のばよたていふんぞければうの  
父いかりてふちうらんとせしを  
にげもせずしてうたれたり。

オヤ  
親の心にはおかしからず。



第二課 孝友

清<sup>セイ</sup>七<sup>シチ</sup>は、ねんごろに  
父のやまひを  
かいはうしやさい  
なごをうりて、

いこのくらゐをたてたり。

父ーーてのちは母の心をよるば  
しめんことをしめ、またよく弟を  
いつくしみたり。

父母の心をよるばしむるは孝なり。

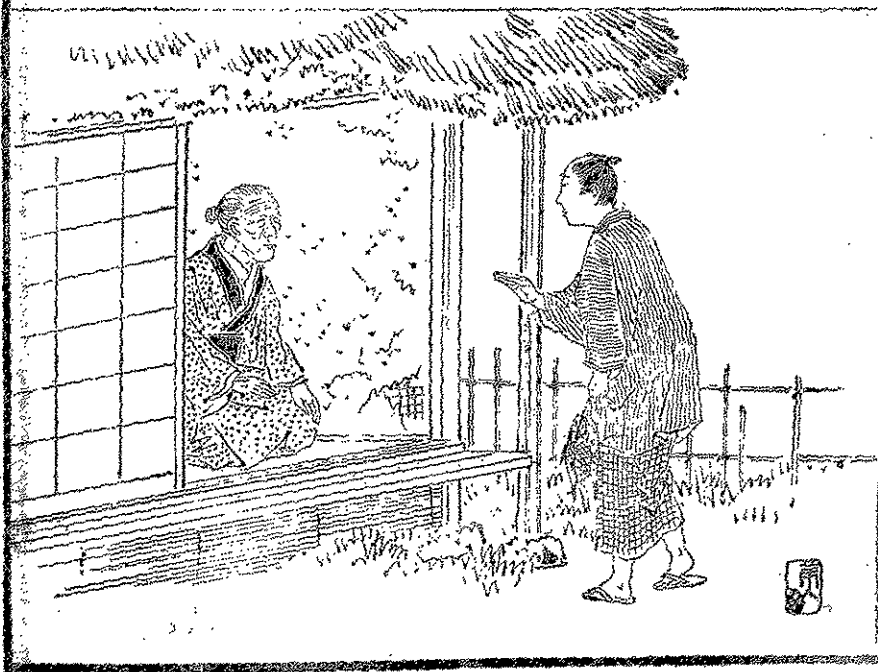
第三課 孝悌

孝悌<sup>カウテイ</sup>は身<sup>ミ</sup>を

立つるの本なり。

甚<sup>ジン</sup>助<sup>スケ</sup>は、つねに

母に孝行をつくり



ろとにいづればろのこのむものを  
もとめきたりて母をよろこばせたり、  
ろのろへ兄にもよくすなほに  
つかへければ國主<sup>ロシシ</sup>よりはうびを  
たまはりたり。

駿イノイシ  
總太郎父の  
をへをうく。



第四課 友愛

總太郎<sup>ソウタラウ</sup> 兄弟は  
父母の言をまもり  
てむつまじくまづはり  
家を分ちたるのち

も兩家<sup>リウケ</sup>一た<sup>ニクノイハ</sup>一みむつみとも<sup>ニクノイハ</sup>にげふ  
をつめて、いささかもものあらうひ  
をなせり。

父母のほかに、兄弟ほ  
一た一きはな一。

第五課 婦徳

女子はなにことも  
ものおはらぬにして  
ことば少く、いかにめ  
なるをよーとす。

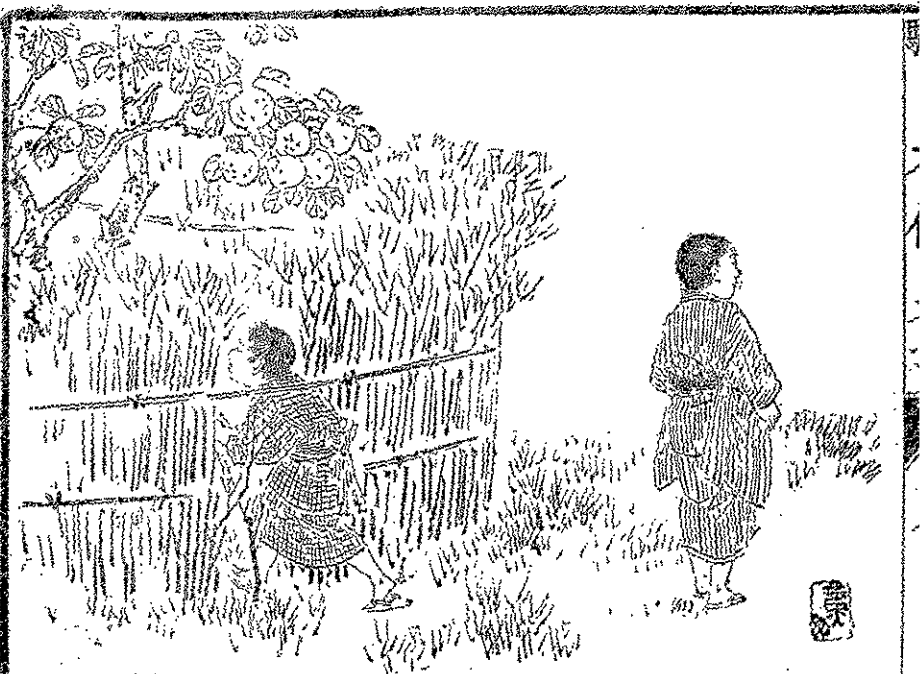


こゝ女婦にむかひて女の  
ことばをよとす。

心さわがくことば多くして、ほろりがほ  
なるはよろーからず。

よく女姉妹のことをみても、  
のよくあーをーるべー。

言をばひか<sup>オコナ</sup>行ひをばつむぐー。



第六課 朋友

己れに—かざる  
ものを友とする  
ことなかれ。  
善き人にまづはれ

ば、日日に善きことをせよ、善き  
ことをみならひて、けきあり。  
惡き人にまづはれば、日日に  
惡きことをせよ、惡きことを  
をみならひて、ろんあり。

第七課 約束

名<sup>ナ</sup>和<sup>ワ</sup>長<sup>ナガ</sup>年<sup>トシ</sup>は、信實  
の人にて、一たびも  
約束<sup>ヤクソク</sup>にふむきたる  
ことなし、ある日



たはふれに、うーかいに松<sup>マツ</sup>をあたへん  
といひに、父これをあつたへんに  
松をきりて、うのものにあつたり。  
ことばは、かならず信實にすべし  
かりうめにも、うはるべからず。



第八課 潔白

諸<sup>モロ</sup>崎<sup>ガキ</sup>莊<sup>シヤサ</sup>右衛門<sup>サエモン</sup>といふ  
人いせまゐりのかへり  
あるちやみせに  
やすみもちののこり

をよりつごひたることもらにあたへたり、  
しがるにそのうちの一人は、かなた  
にたちざりて、「人のあまゝたるもの  
などを、なにとてもらひてくふべき  
や」といひたり。

第九課 廉直

心正直シンヤウヂキにして  
いさぎよき人は、  
みだりにもものを  
とることなし。



ある はたごやの女 たびびどの、  
わすれきたる かねつつみを みいだり、  
たいせつに をさめねきて、うのぬい  
にかへせり。

廉士レンシは、みだりにとらず。  
シヤウヂキノヒト



第十課 博愛

何事も人の上を思  
ひはかりて、我が身  
ひとつを利すべからず。  
ただ我も人もとも

によきやうにと心がくべ。

山形屋莊兵衛は近所より火事のたとり

ーとき直ちに外に出でて、火事ありとく

水をくみかけよとよびて、町内をふれまはり、

ーかるのち、己れの家をかたづけたり。

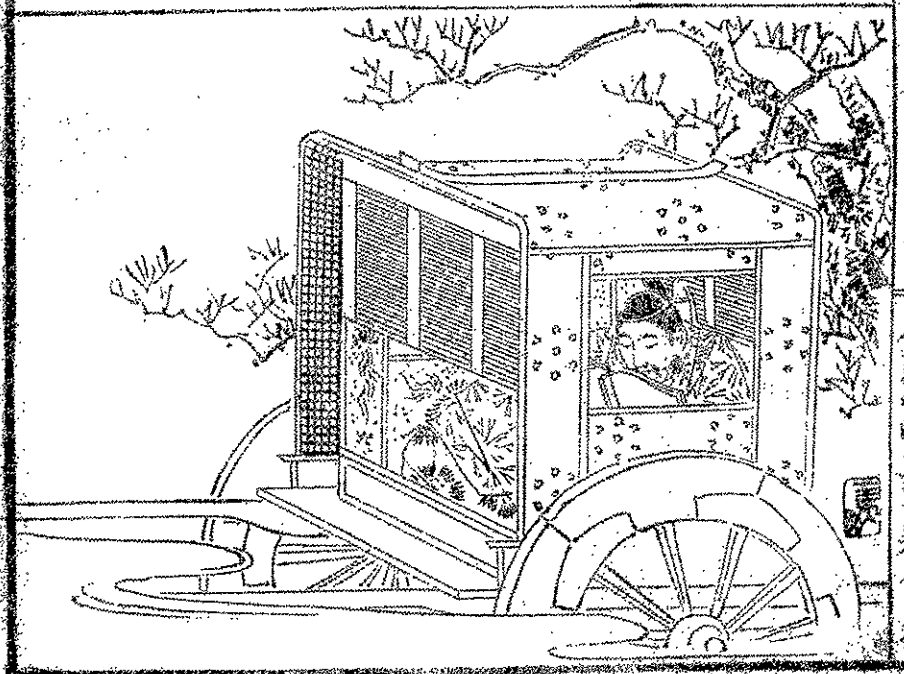
第十一課 勤勉

藤原在衡は人に

すぐれたる才學

ありーにはあら

ざれども車の中



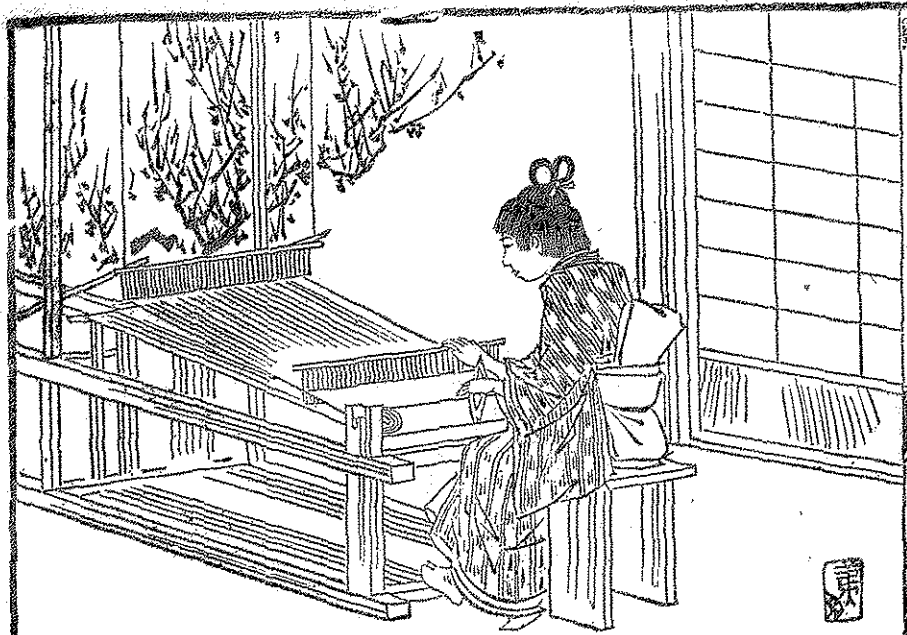
にてもつとめてしよもつをよみ

天皇のむんたづねにこたへたてまつりけれ

ば天皇これをほめたまひたり。

人一たびーてこれをよくすれ

ば己れはこれを百たびす。



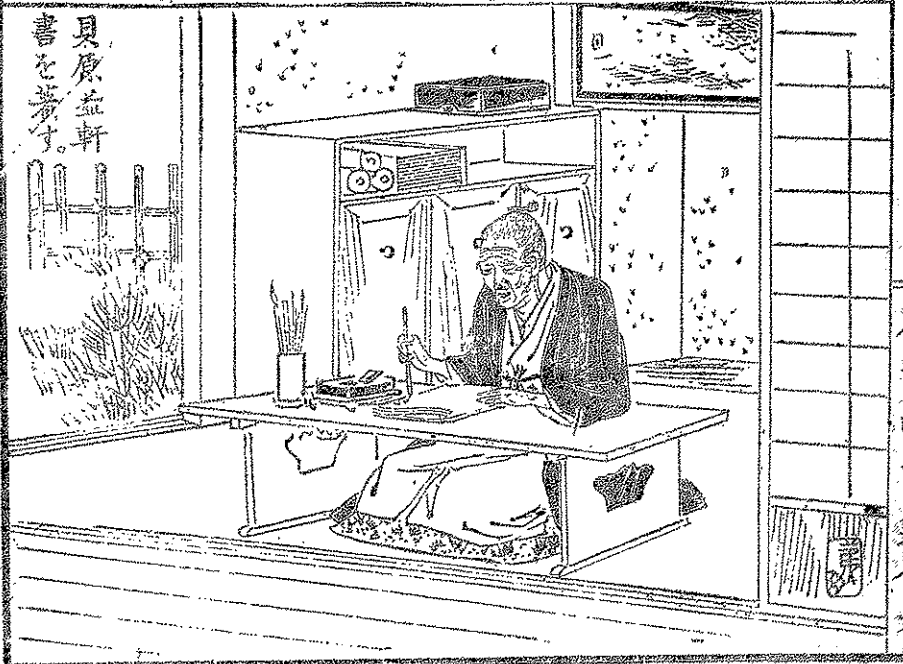
第十二課 勤勉

つとめてれたら  
 ざればなにごとも  
 なるものなり。  
 むか<sup>井ノ口</sup>井上でんと

いふものあり、幼くしてはたたる  
 ことをこのみ、ろのわざをつとめ  
 けるが、つひにくるめがすりといふ  
 ものをわりいだせり。  
 勤<sup>ツト</sup>むれば功<sup>コウ</sup>あり。

第十三課 攝養

人はつねにくひもの  
のみものをつつみ  
うんどうをつとめからだ  
をきよらかにすれば



やまひにかかることなくて、ナガイキ長生  
するものなり。

益軒先生エキケン センセイの老いオてなごころトシラシは、  
まづたく養生ヤシヤサのオなり。

身ミをたもつには養生のみちをたもつ。  
カラダ



第十四課 公益

善ゼンをするは、サカを  
のぼるがごとく、ユタん  
なくつとめよ。

行基ギヤウキは、國國を

めぐりて、みちをつくりはしをかけ、  
もののつくりかたなどをつたへて、世ヨの益エキ  
をはかりたり、岡本嘉藏ヲカモトカザウは、人のためを  
思オモひて、むらさかひのみちををさめたり、  
いづれも公益コウイの心ふかきものとすべし。

第十五課 勇氣

真マコトの勇者ユウヤは、みだりに  
人ヒトと争あらそはぬものなり。  
塚原ト傳ツカハラトデンは、けんどうつ  
の達人タクジンなり、あるとき



舟フナにて近江オホミの湖ミヅウミをわたりけるに、一人の  
武士ブシ、きりにたたかひをいごみければ、  
舟フナをあるどころにつけさせ、その人を陸に  
上げ、舟をつきいだして立ち上りたり。  
勇者ユウヤは、怯ケイなるがごとし。



第十六課 皇恩

神武天皇<sup>ジンムテン</sup>は民<sup>タミ</sup>の  
 くるーみをすくはんと  
 て日向の宮<sup>ヒナガ</sup>を立ちいで  
 たまひ大和<sup>ヤマト</sup>の國に

入りて命<sup>イ</sup>に―たがはざるものをうちたひらげ  
 天皇の御位<sup>ミツシキ</sup>につきて世を治め<sup>ラサ</sup>民を恵み<sup>メシ</sup>  
 たまいき。これより世よく治り<sup>ラサ</sup>我が身も  
 今の御代<sup>ミヨ</sup>に生れて<sup>ウマ</sup>安くくらさるることなれ  
 ばいざの御恵み<sup>ミイメ</sup>を―らでかなふべき。

第十七課 報恩

福嶋正則の近臣某

といふもの、つみを

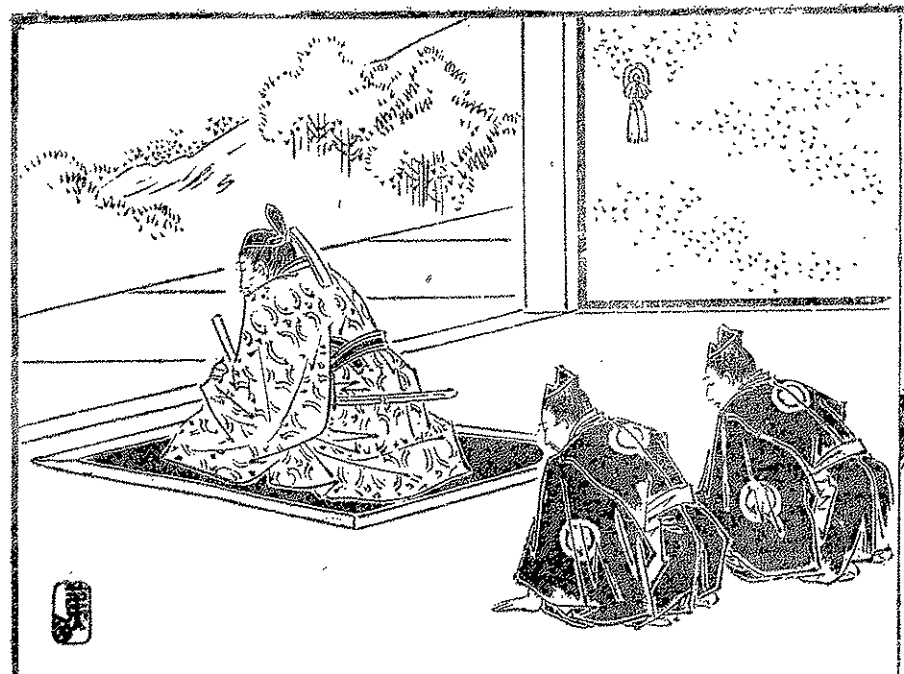
正則にほてゝろの

やぶらにたゝめられ



うゑてゝなんとせゝに一人の茶坊主  
もとの恩に報いんとて、毎夜やきめゝを  
もちゆきゝのうゑをたすけたり。

恩をぼごゝては、たもふことなかれ、  
恩をうけては、あするることなかれ。



第十八課 尊王

人の行ひは忠孝より

大いなるはなり。

徳川光圀はふかく

朝廷をたふとび、一月

一日には必ず朝はやくなきて、禮服を

き、天皇のまゝます方に向ひて、敬禮

を行ひ、又大日本史をつくりて、天皇の

御系統をあきらかにし、忠孝の人を

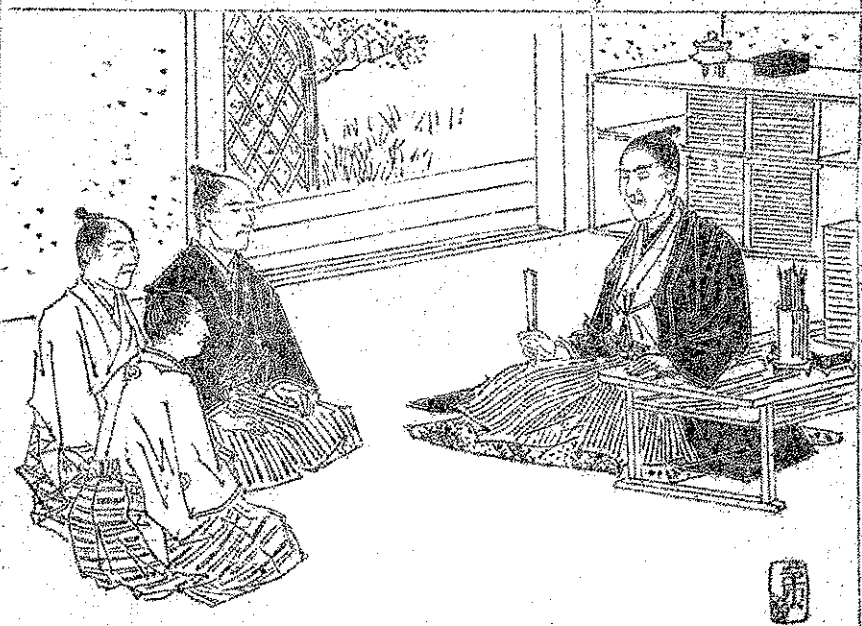
ほめ、正成のはかをもたてたり。

第十九課 愛國

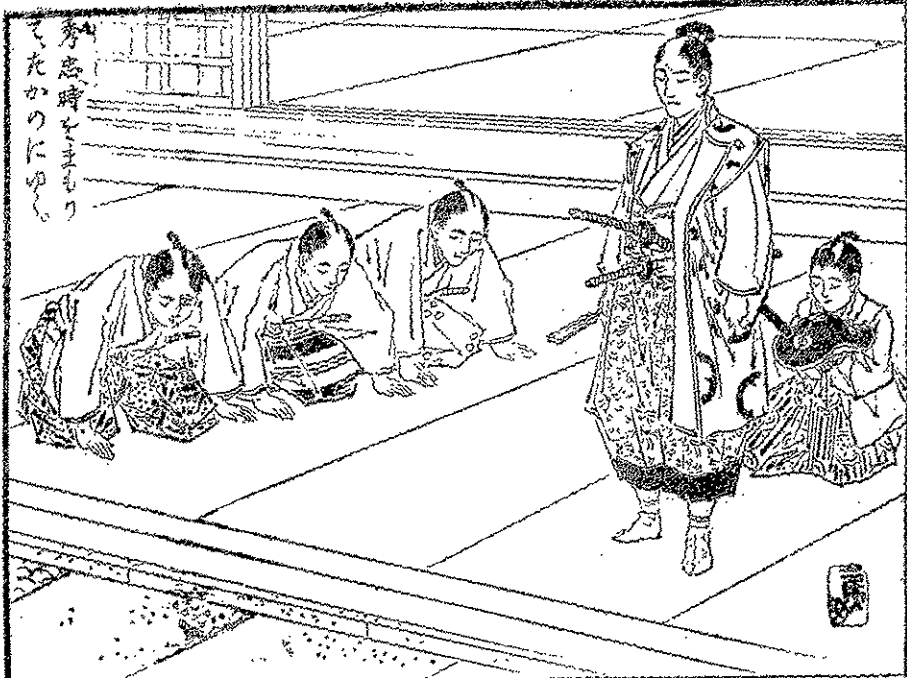
山崎闇齋、あるとき

でーに向ひて、「もー

孔子孟子の兩人、大將  
となりて我が國にせめ



來りなばいかかすべきやといふにたれも  
はこたへずして先生のをへをこひたり  
闇齋これにきこいて我はこれとたたかひ  
て兩人をとりこにすべしといひいとぞ  
君と國とをわするべからず。



秀忠時をまつり  
きたかりにゆく

第二十課 掟を守る

國の掟は、世を治め  
人を安んずるがために  
まうけたるものなれ  
ば、つらみてこれに

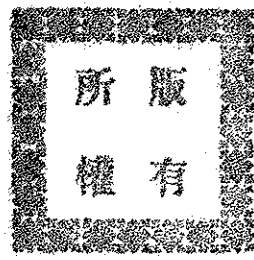
「たがひかりうめにもれろろかに思ふ  
べからず。」

徳川秀忠は、つらみふかき人なりつねに  
父の定められたる掟を守りて國を治  
めいささかもこれにたがふことなかりき。

明治廿六年五月二日印刷同年五月五日發行  
 明治廿六年六月十日印刷同年六月廿七日發行  
 明治廿六年六月十日印刷同年六月廿七日發行  
 同年九月三日改正再版印刷同年九月七日發行

定價	入門一	金三錢五厘
入門二	金五錢	
自六	各金五錢五厘	

金港堂書籍株式會社



著作	渡邊政吉
印刷	金港堂書籍株式會社
發行	東京市日本橋區本町三丁目十七番地
代表	原亮三郎
印刷	東京市下谷區西長寺町四百十番地
發行	金港堂
印刷	大阪府東區南水町四丁目
發行	金港堂

